

「平成28年度オリンピック・パラリンピック教育推進校」

事業実施報告書

- I スポーツへの誘い 自己肯定感の醸成
- II 障害者や高齢者への理解 共生社会の形成
- III スポーツへの関心や競技力向上 スポーツボランティアへの参画
- IV オリンピック・パラリンピックに向けた京都の伝統や文化等の発信
- V 国際理解教育の推進

【学校名】 京都府立 舞鶴 支援学校

【全校児童・生徒数】 138 名

【テーマ】 I II III IV V

【実践研究タイトル】

仲間と共に勇気を持って！

【実践学年、部、講座等（学年別・男女別人数）】

小学部（2・3・4・6組の高学年10名）、中学部（2・4・5・6組21名）
高等部（3・4・5組17名）

【目的・ねらい】

オリンピック・パラリンピックの価値	友情（○） 卓越（ ） 尊重（○） 勇気（○） 決断力（ ） 平等（ ） 鼓舞（ ）
-------------------	--

- (1) 競技を通して、競技をする上でのルールやマナーを学び、競技力を高める中で達成感を味わわせ、自己肯定感を高める。
- (2) 競技を通して人と関わる力を高め、互いに尊重しあえ、協力・協同することの大切さを学ばせる。

【種類】

- ・各教科（ 数学、保健体育 ） ・道徳 ・外国語活動 ・総合的な学習の時間
- ・特別活動
- ・部活動（ ） ・その他（ 遊びの指導、自立活動 ）

【実践内容等】

(実践内容)

1 職員向けのボッチャ講習会

(1)日本ボッチャ協会事務局長の片岡正教氏を招き、教員向けの講義・実技研修を行った。初めて経験する職員も多く、ルールやコートの作成等、基礎から学んだ。

2 ボッチャの実施

(1)自立活動や特別活動を通して、高等部の生徒と中学部の生徒での交流試合を行った。前もって各学級でボッチャを実施し、取り組んだ。見て分かる得点教材を指導者が作り、点数を確認することも生徒が行うことができた。

(2)高等部では数学でもボッチャを取り入れている。得点を計算することをしている。

(3)小学部では、遊びの指導で行っている。試合をする前に、的を作りジャックボールに近い児童には得点（シール）が貰え、それを集めていくことで、ボールのコントロールができるようになってきた。

(実践上の工夫点、留意点等)

- ・車いす生徒用に簡易滑り台と段ボールを組み合わせてランプを作った。段ボールの高さを変えてボールの速さを変化させた。
- ・フラフープとコーン、ゴムで見てすぐに分かる得点計算教材を手作りした。一目で、ジャックボールから一番近いボールがどれなのかがわかるようになった。
- ・ボールを投げる時の力加減を考えさせる練習に、四角や丸等の目印を置き、そこに入るようにゲーム前に練習した。
- ・待ち時間を減らすために、何セットかボールを用意し、同時並行に活動を行った。

(成果)

- ・ゲーム前に、各学級でジャックボールにいかになら近づけるかの練習をすることで、力のコントロールができるようになった。小学部高学年児童であってもボールを投げるスピードや角度を考えながら投げることができるようになった。
- ・肢体不自由で自分から意思を伝えにくい生徒が、どの方向でボールを転がしたいという気持ちを伝えられるようになってきた。
- ・小学部・中学部・高等部が共通してできるスポーツであり、交流となった。

【オリンピック・パラリンピック教育の実施に伴う課題等】

- ・校内の交流だけでなく、地域の方々とも関わって又広めていけるよう、自校からのボッチャの発信をしていきたい。